

川崎市総合計画市民検討会議・第1部会「社会福祉」 グループディスカッションまとめ H26.11.1

1 「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」

支援が必要な高齢者

□ 支援が必要になる前からの地域での関係づくり、日頃からのコミュニケーションづくり

- 困っている人の情報が把握できないことが問題であり、挨拶や声掛けで地域での関係をつくとともに、気軽に集まれるところを地域につくることが重要。【自助・共助】[グループ①]
- 地域で支え合うためには、介護が必要になる前から近所との関係づくりが重要ではないか。【自助・共助】[グループ②]

□ 家庭・地域・行政の連携による対策の推進

- 家庭・地域・行政が連携し、病気や介護の予防・事前対策に取り組むことが重要。【自助・共助・公助】[グループ①]

□ 届きやすい情報提供と地域でのコーディネート

- ボランティアや見守りをやってもよいという人は多いため、行政が情報提供を行うとともに、地域でコーディネートする人材の育成が必要。【共助・公助】[グループ①]
- 行政による支援は充実しているが、その情報が届いていない。届け方に工夫が必要ではないか。【公助】[グループ②]

□ 高齢者自身が情報を知ろうとする意識を持つ

- 高齢者自身が、元気うちに介護や福祉の情報を知ろうとする意識が大切ではないか。【自助】[グループ②]

□ 介護の専門人材を確保する仕組みづくり

- 不足している介護を担う専門人材を確保する仕組みづくりが必要なのではないか。【公助】[グループ②]

キーワード：「情報の共有」、「人間関係」

支援が必要になる前からの地域での関係づくりが重要。個人情報保護の壁があるからこそ、日頃からのコミュニケーションが大切。

2 「高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり」

元気な高齢者

□ 高齢者の出番づくり、高齢者のスキルや経験を発揮できる機会を地域で創出

- 高齢者が参加したくなる仕組みづくりが重要であり、地域にコーディネーターが必要。地域にはいろいろなスキルや経験を持った高齢者がいるため、「地域の便利屋集団」をつくってはどうか。【共助・公助】[グループ①]
- 役割や責任をもって生きがいを感じられるように高齢者の“出番”を作ることが大切。町内会など地域での活動や、ボランティア活動など、自分のスキルや経験を発揮できる機会を創出する必要がある。【共助】[グループ②]

□ 世代を超えたナナメの関係、子ども・若者と高齢者のコミュニケーションの場づくり

- 行政は交流の場ときっかけを提供し、あとは市民同士が連携して、世代を超えたナナメの関係、コミュニケーションの場を作り出していければいい。【自助・共助・公助】[グループ②]
- 世代を超えて繋がりをつくるのが大切。保育園・幼稚園・学童などと、老人施設を近い場所に置くなどしてはどうか。【公助】[グループ②]
- 子ども・若年層との交流促進が重要であり、小学生とのコラボや高齢者と若者のシェアハウスなどが有効ではないか。【共助・公助】[グループ①]
- 高齢者だけではなく、子どもや女性も集まる場が必要。コミュニティキッチンなどの気軽な多世代交流の場を作ってはどうか。【共助・公助】[グループ②]

□ 高齢者が外に出て、交流するためのやる気を起こすしかけづくり

- 高齢者が外に出て、交流することが元気の源になる。そのためのやる気を起こす仕掛けづくりが必要。地域情報紙などによる発信を強化したり、行政の業務の一部を高齢者に委託したりしてはどうか。【公助】[グループ①]

キーワード：「出番」、「場づくり・きっかけづくり」

主体はあくまで市民であり、出番をつくるのが重要。そのきっかけづくりは行政が行う。

3 「超高齢社会を迎えて、いきいきと暮らせるしくみづくり」

これから高齢になる方

□ 地域や大学などと連携した検診の促進

- 日頃からの食生活の改善や運動とともに、検診を促進することが重要。検診に足が向かない高齢者がいるため、区民祭への検診コーナーの出店や大学と連携による出張検診などはどうか。【自助・共助】[グループ①]

□ 自然資源や関連施設を活用した交流・運動機会の拡大

- 運動のきっかけづくりのために、生田緑地や多摩川など川崎市内の自然資源を活用したイベントを行ってはどうか。また日常的な運動機会をつくるため、多摩川に民間活用によるスポーツ拠点を設けてはどうか。【共助・公助】[グループ②]
- 他地域との交流や施設の相互利用など、広域的な調整も重要。【公助】[グループ①]

□ 民間も力を出しながら、高齢者やこれから高齢者になる方が地域に出ていくやる気を引き出す

- 日常的に地域に出ていく機会をつくる必要がある。例えば地元商店と連携して特典を設けてはどうか。【共助・公助】[グループ②]

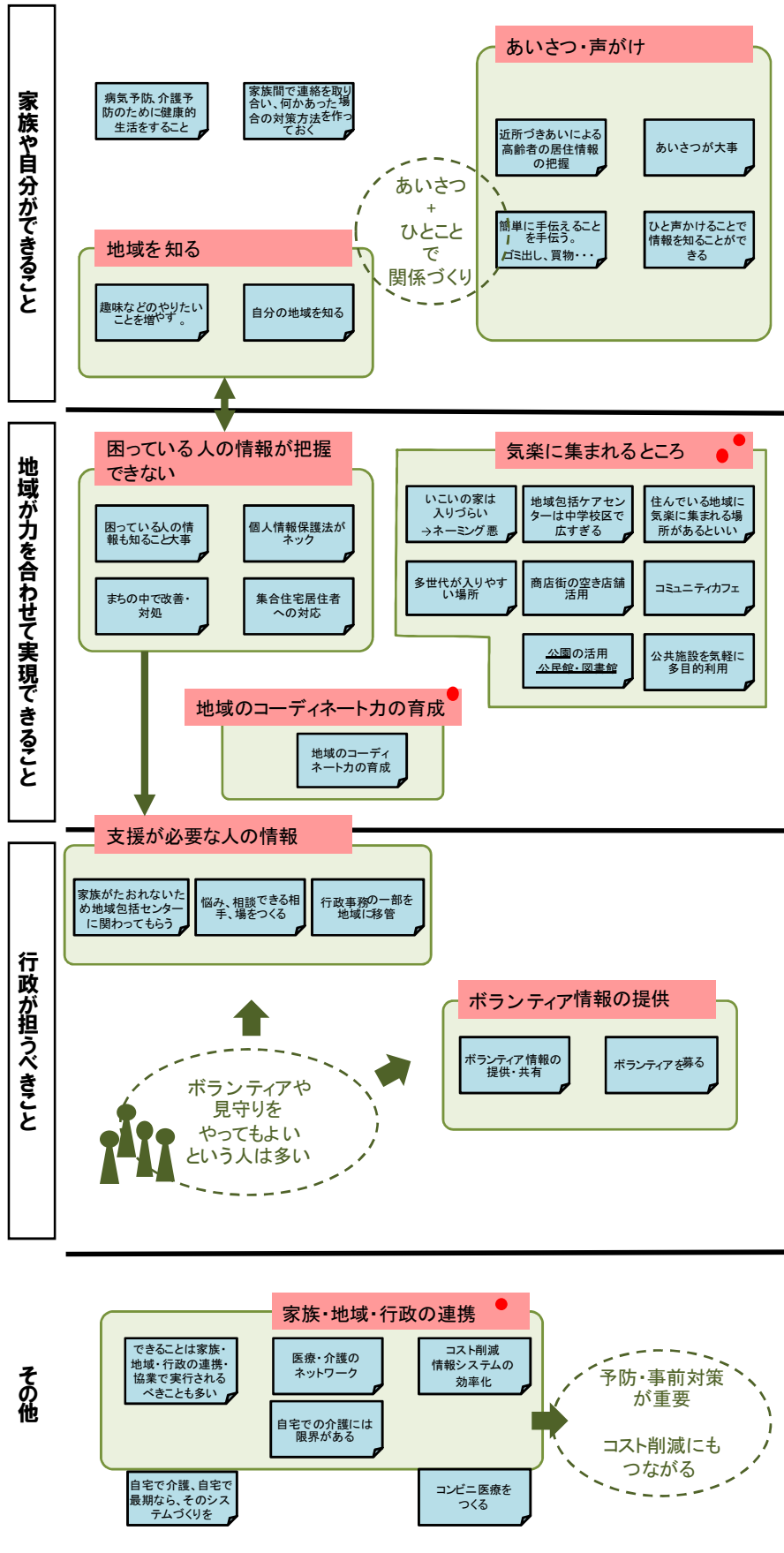
キーワード：「メリットと見える化」

民間も力を出しながら、メリットを感じることで、効果が見える化することが重要。高齢者やこれから高齢者になる方のやる気を引き出す必要がある。

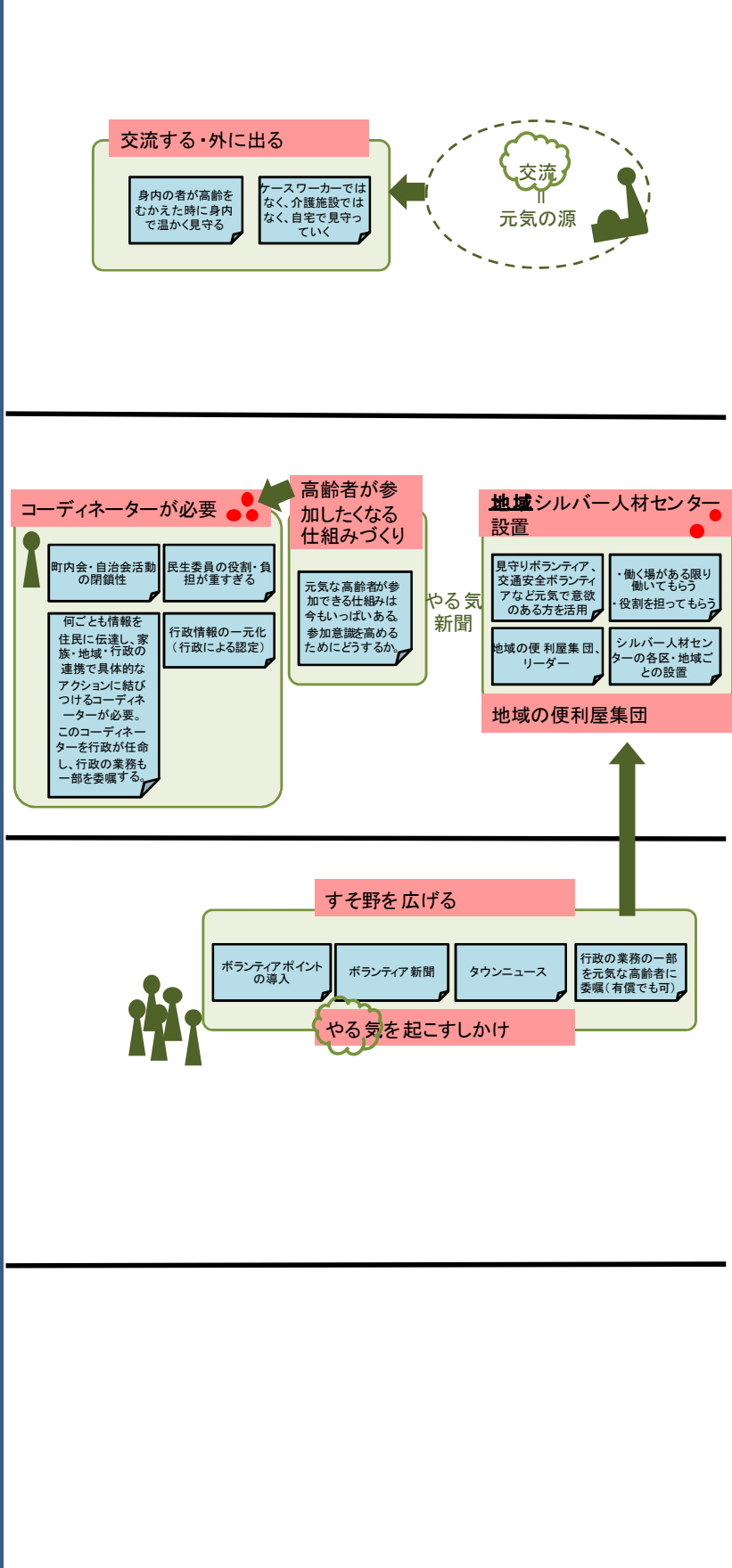
第1部会における意見のまとめ

重点検討テーマ・分野		まとめのキーワード	部会における主な意見	分類			グループ	
				自助	共助	公助		
1 生命を守りいきいきと暮らすことができるまちづくり (2)身近な地域で支え合うしくみの構築	高齢福祉	支援が必要になる前からの地域での関係づくり、日頃からのコミュニケーションづくり	困っている人の情報が把握できないことが問題であり、挨拶や声掛けで地域での関係をつくとともに、気軽に集まれるところを地域につくることが重要。	●	●		1	
			地域で支え合うためには、介護が必要になる前から近所との関係づくりが重要ではないか	●	●		2	
		家庭・地域・行政の連携による対策の推進	家庭・地域・行政が連携し、病気や介護の予防・事前対策に取り組むことが重要。	●	●	●	1	
		要支援高齢者 届きやすい情報提供と地域でのコーディネート	ボランティアや見守りをやってもよいという人は多いため、行政が情報提供を行うとともに、地域でコーディネートする人材の育成が必要。		●	●	1	
			行政による支援は充実しているが、その情報が届いていない。届け方に工夫が必要ではないか。			●	2	
		高齢者自身が情報を知ろうとする意識を持つ	高齢者自身が、元気うちに介護や福祉の情報を知ろうとする意識が大切ではないか。	●			2	
		介護の専門人材を確保する仕組みづくり	不足している介護を担う専門人材を確保する仕組みづくりが必要なのではないか。			●	2	
		元気高齢者	高齢者の出番づくり、高齢者のスキルや経験を発揮できる機会を地域で創出	高齢者が参加したくなる仕組みづくりが重要であり、地域にコーディネーターが必要。地域にはいろいろなスキルや経験を持った高齢者がいるため、「地域の便利屋集団」をつくってはどうか。		●	●	1
				役割や責任をもって生きがいを感じられるように高齢者の“出番”を作ることが大切。町内会など地域での活動や、ボランティア活動など、自分のスキルや経験を発揮できる機会を創出する必要がある。		●		2
			世代を超えたナナメの関係、子ども・若者と高齢者のコミュニケーションの場づくり	行政は交流の場ときっかけを提供し、あとは市民同士が関係して、世代を超えたナナメの関係、コミュニケーションの場を作り出してほしい。	●	●	●	2
	世代を超えて繋がりをつくるのが大切。保育園・幼稚園・学童などと、老人施設を近い場所に置くなどしてはどうか。					●	2	
	子ども・若年層との交流促進が重要であり、小学生とのコラボや高齢者と若者のシェアハウスなどが有効ではないか。				●	●	1	
	高齢者だけではなく、子どもや女性も集まる場が必要。コミュニティキッチンなどの気軽な多世代交流の場を作ってはどうか。				●	●	2	
	高齢者が外に出て、交流するためのやる気を起こすしかけづくり		高齢者が外に出て、交流することが元気の源になる。そのためのやる気を起こす仕掛けづくりが必要。地域情報紙などによる発信を強化したり、行政の業務の一部を高齢者に委託したりしてはどうか。			●	1	
	健康	地域や大学などと連携した検診の促進	日頃からの食生活の改善や運動とともに、検診を促進することが重要。検診に足が向かない高齢者がいるため、区民祭への検診コーナーの出店や大学と連携による出張検診などはどうか。	●	●		1	
		自然資源や関連施設を活用した交流・運動機会の拡大	運動のきっかけづくりのために、生田緑地や多摩川など川崎市内の自然資源を活用したイベントを行ってはどうか。また日常的な運動機会をつくるため、多摩川に民間活用によるスポーツ拠点を設けてはどうか。		●	●	2	
			他地域との交流や施設の相互利用など、広域的な調整も重要。			●	1	
		民間も力を出しながら、高齢者やこれから高齢者になる方が地域に出ていくやる気を引き出す	日常的に地域に出ていく機会をつくる必要がある。例えば地元商店と連携して特典を設けてはどうか。		●	●	2	

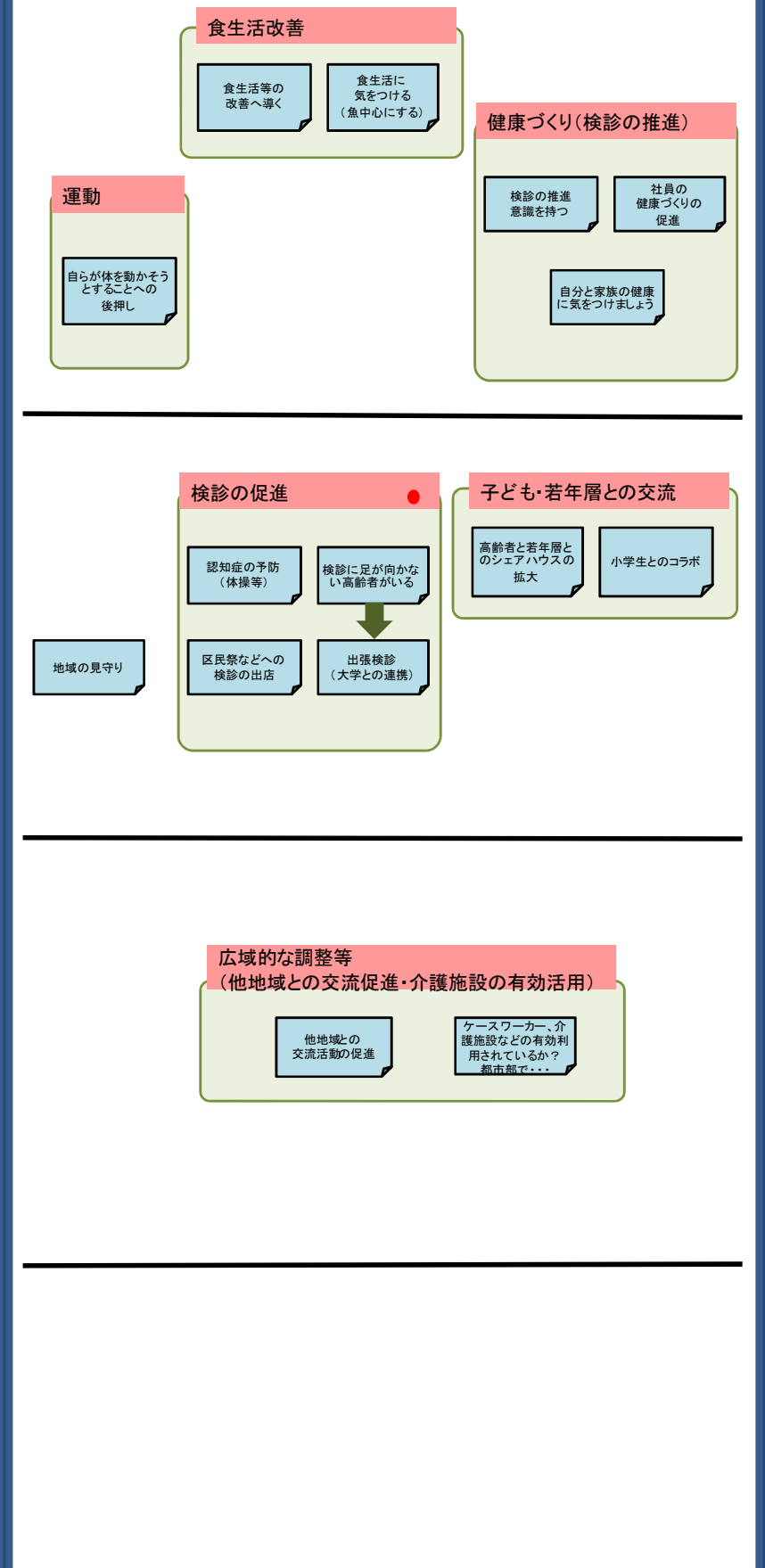
1 「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」



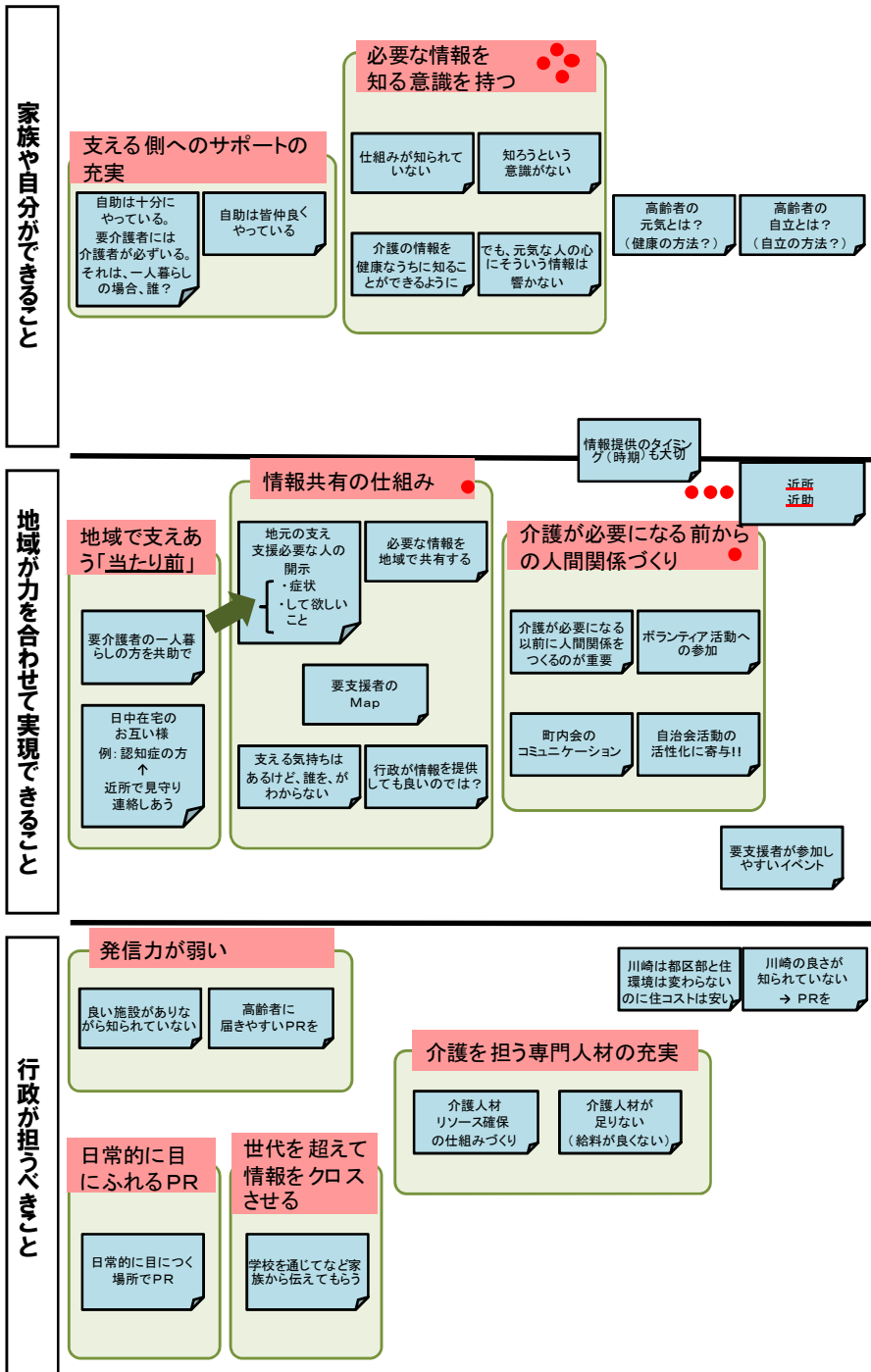
2 「高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり」



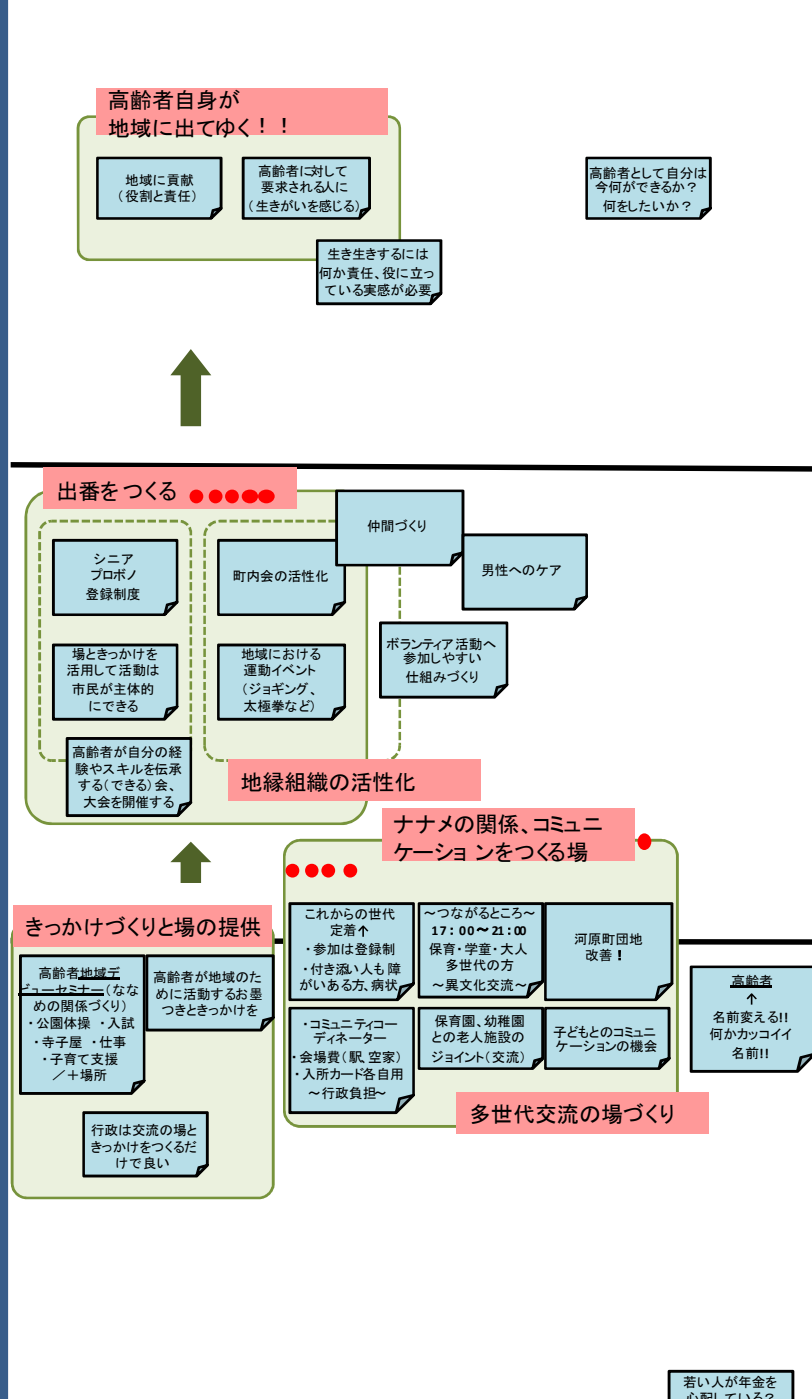
3 「超高齢社会を迎えて、いきいきと暮らせるしくみづくり」



1 「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」



2 「高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり」



3 「超高齢社会を迎えて、いきいきと暮らせるしくみづくり」

